

## 令和 2 年度

### 長時間労働者への医師による面接指導を効果的に実施するためのマニュアルの作成

研究代表者 堀江正知

**研究目的：**本研究は、長時間労働者に対する医師による面接指導（以下、面接指導）を行ううえで科学的根拠や労働衛生政策の知見を整理し、効果的な面接指導を実施するためのマニュアル（以下、マニュアル）の最終版を作成することを目的とした。

**研究方法：**最終年度は、第 2 年度に作成したマニュアル案を研究班員で点検して改訂し、帳票や好事例のモデルを作成して収載した改訂案を作成した。改訂案を長時間労働者に対する科学的知見や産業保健政策の研修を受けて産業医科大学特命講師を委嘱している産業医 54 名に評価させ、活用可能なアイデアを募集して第二次案を作成した。さらに、第二次案を同上の産業医のうちリモート形式で実施した研修に出席した 41 名に評価させ、その結果に基づいてマニュアルの最終案を完成させた。また、面接指導の代表的なシナリオに基づくイラストと動画を作成した。そして、文献調査やフィールド調査を通じて得られた学術文献やガイドラインに基づく科学的知見、好事例、イラスト、動画、マニュアル最終案については、ウェブサイトを通じて公表した。

**研究成果：**分担研究として実施した研究(1)～(5)の成果を以下に概説する。

(1)「職場の要因が原因となる循環器疾患及び精神疾患とそのリスクの予防についての科学的根拠に関する文献調査」では、主に 2008 年以降に公表された 444 文献の和文要約を作成し、脳血管疾患、心疾患、精神障害、糖尿病、高血圧等の疾病別に整理し、主要 20 文献は一覧表にまとめて面接指導マニュアルに参考資料として掲載した。

(2)「長時間労働者に対する医師による面接指導実施マニュアルの評価に関する研究」では、特命講師の産業医 47 名から有効回答（回答率 87%）を得て、マニュアルの理解しやすさ、検索、情報、有用性、読みやすさ、魅力などについて改善や工夫をすべき事項の回答に基づき第二次案を作成した。第二次案には、面接指導の流れを面接指導対象者の選定、面接指導の実施、事後措置の 3 段階に医師、面接指導の対象者、事業者が行うことを明確にした図を作成して巻頭に記載した。また、使用する様式を明示した。対象者の選定方法は根拠法令とともに示した図を作成した。必要な情報の収集方法を記載した。

(3)「長時間労働者に対する医師による面接指導マニュアル最終案の作成」では、特命講師の産業医 41 名から意見を得て、最終案を完成させた。最終案では、面接指導の目的を明示した。優良企業の調査から、対象者の選定方法、面接指導の実施時間等の結果を掲載した。高度プロフェッショナル制度適用者、研究開発業務、一般労働者、管理監督者、裁量労働制ごとに法的な選定要件について図で示した。事業者が独自に選定基準を設ける場合の留意事項を追加した。事前に把握して面接指導で確認すべき事項を勤務状況、疲労蓄積状況、その他心身の状況に分けて、具体的な内容を記載した。問診票に通勤方法・通勤時間の項目を追加した。業務過重性を評価する項目に、長時間労働の発生理由、今後の見通し、仕事の負

担度、職場の支援度を追加した。新たに産業保健職以外は閲覧不可とする「長時間労働面接記録用紙」を作成し、聴取すべき具体的な内容や記入例を掲載した。対象者を出迎える場面、面接指導で確認事項を聴取する場面、面接指導を終了する場面での会話例を記載した。疲労度と健康障害リスクを4段階評価する現行の項目は客観性が乏しいことから削除した。

(4)「就業上の措置および職場での改善事例に関するイラスト作成および公開」では、面接指導や職場改善の好事例41例（温度環境改善、騒音対策、照度調整、業務の公平化・簡素化、優先業務の明確化、無駄の廃止、慣習撤廃、ペーパーレス化、自動化・機械化、5S、外注化、指揮令系統の統一、部署間協力、情報通信機器活用、通勤改善、ノー残業デー、上司の率先帰宅、受診勧奨、保健指導、作業転換、就業形態変更、人材育成、有給休暇取得、衛生委員会での審議、良好な休憩環境、在宅勤務等）のイラストを作成し解説を付した。

(5)「長時間労働者に対する医師による面接指導の広報用動画作成」では、映画監督と共同で、面接指導の進め方を短時間で簡便に理解できる動画のシナリオ6本（導入編、出迎え編、産業医の心得、上司を交える、まとめ編1、まとめ編2）を作成し、研究者らで演出や配役を分担し、産業医科大学内で撮影した。

以上の成果に基づいて「長時間労働者に対する医師による面接指導マニュアル」の最終案を編纂して、文献要約、好事例、イラスト、動画とともに産業医科大学産業保健管理学研究室が運営する「過重労働対策ナビ」(<http://oshdb.jp/>)で公開した。

**結論：**面接指導を行うための最新の科学的根拠と労働衛生政策から得られた知見を整理して効果的な面接指導を実施するためのマニュアルの最終版を完成させ、カラー印刷した冊子体を作成した。また、面接指導の代表的シナリオに基づくイラストと動画を作成した。マニュアル最終案、文献要約、好事例、イラスト、動画は「過重労働対策ナビ」で公開した。

**今後の展望：**本研究で作成した「長時間労働者に対する医師による面接指導マニュアル」最終案は、現在、長時間労働者の面接指導で広く使用されている「面接指導チェックリスト・マニュアル」（産業医学振興財団、平成20年8月作成）と「長時間労働者、高ストレス者の面接指導に関する報告書・意見書作成マニュアル」（厚生労働省、平成28年6月修正）を科学的根拠等に基づき改訂した内容として、面接指導を担当する産業医によって広く使用されることが期待される。また、効果的な面接指導を支援するツールとして作成した、好事例、イラスト、動画は、産業医をはじめとする産業保健専門職によって活用されることが期待される。面接指導についての知見を収載している「過重労働対策ナビ」の閲覧数が上昇し、そのコンテンツが活用されることによって面接指導の効果的な実施法が一層普及することが期待される。